

# Our Future

夢と希望が輝く中学校へ

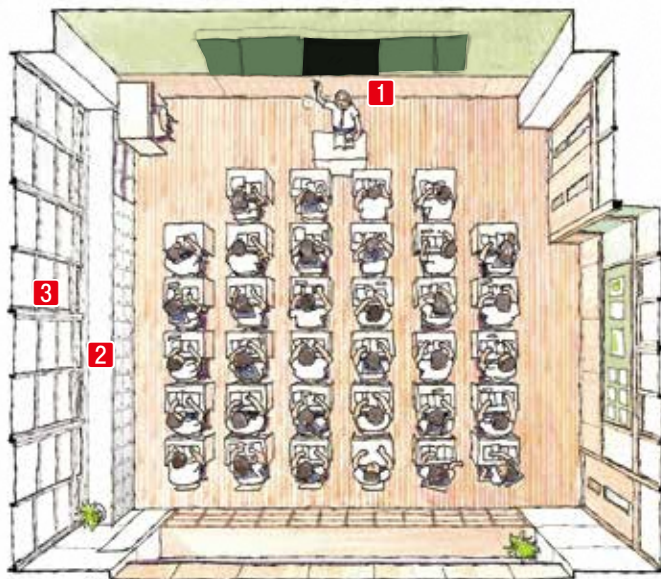
## 浜岡中学校の新校舎図鑑

vol. 3 普通教室

今回は生徒の生活の場となる普通教室を紹介します。

全学年の教室を南側に配置し、今までより余裕のある広さに設計しています。前面黒板に大型ディスプレイを仕込むことによって、授業でのICTの利用をさらに推進することが可能になっています。

また、従来の個人ロッカーに加え、鍵のかかるロッカーを追加し、学用品の整理とプライバシーにも配慮しました。各教室にエアコンを設置しますが、窓の開口を大きくし、座っていても風を感じることができる作りとしています。次回は、中庭と一体利用できるサブアリーナを紹介します。



1 大型ディスプレイを仕込んだ黒板

2 鍵のかかる個人ロッカー

3 開口を広くした窓

照 会 教育総務課 ☎0537-8733

訓練の想定は、①原子力災害時に在宅の要配慮者(即時避難による健康リスクがある人)を、協定に基づく支援により中部電力(株)が福祉車両で放射線防護施設に搬送。②原子力施設の状況などに基づく緊急時活動レベルが全面緊急事態に進展した場合、本市が



▲放射線防護施設から救急車へ要支援者を搬送の様子

この訓練は、万が一の原子力災害に備え、災害支援活動を複数の組織が連携し、迅速かつ的確に実施できる体制の強化を目的に実施されたものです。本市は、牧之原市および中部電力(株)と本年3月に締結した「避難行動要支援者の安全確保に関する協定」に基づき、訓練に参加しました。

4機関合同での連携訓練は今回が初めてとなります。市では、引き続き関係機関と連携を図り、災害時の対応の実効性を高めていきます。

市と市消防本部、御前崎海上保安署、中部電力(株)の4機関は10月10日、浜岡原子力発電所の原子力災害を想定した連携訓練を実施し、約40人が参加しました。

放射線防護施設を稼働。③屋内退避中に体調が悪化した要配慮者を市消防本部の救急車により御前崎港まで搬送した後、御前崎海上保安署が巡視船「ふじ」にて、海路により県内の病院周辺の港まで搬送するシナリオで実施し連携手順を検証しました。

# Atomic

暮らしと原子力

万が一に備え  
4機関が連携訓練を実施